

葉いもち感染好適日判定モデル(BLASTAM)とは

BLASTAMは、県内を中心とした20か所のアメダス観測地点のデータ(気温、降水量、日照時間、風速)から、葉いもちの感染に好適な条件を満たすかどうかを判定します。●は最も感染に好適な条件を示し、パターン1～4はそれに準ずる条件を示しています。なお1～4の数字は整理番号であり、感染し易さの順序ではありません。

●:好適条件	湿潤時間中の平均気温が15～25℃、その継続時間が第1表の湿潤時間以上で、直前5日間の平均気温が20℃を超え、25℃未満の場合
準好適条件	パターン1:湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満
	パターン2:湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上
	パターン3:湿潤時間は10時間以上だが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外
	パターン4:湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い
—	湿潤時間が10時間未満
?	判定不能

第1表 気温・葉面湿潤時間による侵入率

気温(°C)	湿潤時間(h)	侵入率(%)
15	17	4.5
16	15	4.2
17	14	4.6
18	13	4.6
19	12	4.6
20	11	4.3
21	11	3.7
22	10	4.7
23	10	3.4
24	10	3.9
25	10	4.2

好適条件が出現した場合、7日程度後にいもち病の発病が予想されます。なお、好適条件が現れたとしても、イネの品種、肥培管理、防除などによっては発病しない場合があります。お住い近くのアメダス観測地点での判定結果を参考にほ場を観察し、いもち病の発生を確認した場合、早期に防除を行ってください。